



「ありがとう」
その一言が夢決める
いつの日か 安心できる
やさしさを 与えたいと
誓った日

看護部
佐藤知曉

今年も高校生春の一日ナース体験に140人が参加しました。昨今の就職難で資格職人気からなのか、ここ数年はコンスタントに定員を超えています。1日かけて、病院見学、血圧測定、練習、病院食の試食、病棟体験などを行い、看護師の仕事、病院の雰囲気、他職種の仕事を知ってもらっています。

初めは緊張していた高校生も患者さんと触れ合うことで、終わる頃には柔らかな表情に変わっていきます。「患者さんの『ありがとう』の一言がこんなにもうれしいことなんだと思いました」「自分の中で曖昧だった『看護』という仕事を実際に患者さんの前に立つことで、すごく叶えたい夢になりました」と夢の実現へ一歩踏み出すような感想が出されます。

そして、この一日ナース体験が数年後の採用へと着実に実を結んでいます。一日ナース体験で「出会った看護師さんがとてもやさしかった。かっこよかった」「雰囲気の良い病院」「こんな病院で働きたい」と奨学生になって、数年後の就職に結びついていきます。

奨学生の間は、新歓企画、奨学生のつどい、ナーシングセミナー、近畿地協E.N.S（看護学



生ゼミナール）などを通して、同期のつながりや先輩後輩・職員との交流をしながら、学び、育ち合うとよりくみを重視しています。
なんと今年の新卒看護師の45名中10名(22%)が一日ナース体験者です。
私たち看護対の仕事は高校生一日ナース体験から始まり、奨学生の期間をともに悩んで励ましながら、新入職員として新たに迎え入れることが主な役割ですが、高校生・学生の頃からずっとかわってきた人たちが病棟等で元気に頑張っている姿を見ることが一番うれしいです。働くことに慣れないうちは大変で、辛いこともたくさんあると思いますが、共に働く仲間を信じて、生き生きと頑張っているってほしいと願っています。

友の会 活動家紹介

仁和健康友の会運営委員
松田豊子さん



昨秋9月、友の会は、丹後久美浜へ日帰り旅行を開催しました。この企画の段階から、久美浜出身の松田さんは大活躍でした。バ

スや運転手の手配、現地での食事確保、そして、自らの友達にも参加を呼びかけ、当日の車中では、バスガイド役、現地の紹介もいただきました。

また、総会では、踊りの友達をさそっての出演となりました。みなさんの日頃の練習の成果をみせていただきました。踊りは着物とかいろいろとお金がかかるんじゃないのと尋ねると、「踊り用は比較的安価なものよ!」ということでした。

友の会の役員として、また、ミシンの講師として、家族の中心としてがんばっておられます。これからも身体を大事にして、友の会のために、地域のために、友達・家族のために一緒に活動をしていきましょう。

仁和健康友の会 若田